

平成 29 年度 栃木県浙江省友好交流員レポート(12月)

年の瀬も

南方に位置しているとは言え、浙江省の冬は栃木県の冬とあまり変わらず寒く感じます。外を歩く人々の姿を見ていると、日本との服装に大差はなくて日本にいるような感覚にもなります。

しかし、ただ一点だけ大きく違って困っていることがあります。それは暖房設備がしっかりと整えられていないことです。浙江省の建物の多くは保温に適した造りになっていないようで部屋の中が寒いことはよくあります。さらに暖房器具もあまり整っていないようで室内でもアウターを脱がないことが多々あります。そのためか浙江省の冬是北京や天津など北方の冬よりも寒いなんて話も聞きます。そして、雨の日も多くて冷え込む日を送っています。浙江省は年間を通して雨が多い土地柄のようで、それは冬でも変わらず続くようです。

アフレコ大会とスピーチコンテスト

この 12 月はとても忙しい月となりました。それは自ら立てた旅行の計画と、浙江大学のイベントとして開始された 2 つのイベントの司会の仕事を頼まれたことで私自身も驚くような濃い 12 月を過ごすことになりました。まず、12 月の中旬にあった 2 つのイベントの司会のことについて述べていきたいと思います。

一つ目に日本語アフレコ大会です。アフレコとはアニメや動画などの編集の際に声を後から付けていくことを言います。

今回の大会は日本のアニメが題材でしたので、私たち日本人も親しみのある作品などが題材となりました。参加者は浙江大学の学生がほとんどで、日頃の勉強の成果を発表する場でもありました。参加された方々は日本語がうまいばかりで、とても感心していました。そして、普段は日本語の授業を全く受けておらず独学で勉強している学生もいると聞き、私はとても驚きました。その中で私は日本語と中国語での司会を頼まれ、ぎこちない中国語ではありましたが司会を務めました。普段の会話と違い、やはり人前で中国語をしゃべることは緊張しました。日本語だけの司会でも大変ですが外国語となるとさらに緊張度は増します。一緒に司会をやることになった中国人の学生に助けられながらなんとか司会の仕事を務めることができました。この司会を務めたことで中国人の友達も増え、友好交流員としての 1



『アフレコ大会の司会の様子』

つの仕事が出来たのではないのかと思いました。

次に日本語スピーチコンテストの司会です。こちらは浙江大学の主催のもと、他の省からも集められた日本語学科の学生だけの大会になります。内容はテーマスピーチと即興スピーチおよび質疑応答になります。集められた学生は日常会話なら不自由しないだろうと思われるほど日本語が堪能な学生が多く、ここでもやはり感嘆するばかりでした。大会のレベルは高く、中身の濃い大会でした。この時も私は司会を頼まれたのですが、今回はほぼ日本語のみと聞いていたので少し気楽に構えていました。



『スピーチコンテストの司会の様子』

た。しかし、大きな大会での日本人代表として日本語で司会をするという事実気づいた時、アフレコ大会の時の緊張とはまた違う緊張感がありました。当日はかなり緊張していましたが、もう一人の中国人の司会の学生と何とか乗り切ることができました。ここでもまた多くの人と交流し、中国人の知り合いも増えてとても充実した時間を過ごすことができました。来年も開催されると伺ったので来年の交流員の方もチャレンジしてみたいかと思っています。

この12月は3か所の浙江省外の場所を訪ねました。上海、南京そして武漢です。

まず、上海には観光というより見てみたいイベントがあつて行きました。それはcomic cupと呼ばれるイベントです。日本でいう所のコミックマーケットです。このイベントは中国で一番規模の大きなものだと聞き、海外では日本のアニメや漫画がどのように海外で盛り上がっているのか、興味があつて行きました。イベントの様子はほぼ日本のコミックマーケットと同じようなものでした。流石に日本ほど込み合つてはいませんが、盛り上がりは負けていないものがありました。日本のアニメが海外でも流行っている様子を見ると、アニメが好きな身としてはうれしくもありました。



『comic cupの看板』

次に南京、武漢と続けて旅行しました。

最初に、南京に行き世界遺産にもなっている明孝陵、そして中山陵を観ました。歩いていて思ったのは、中国の旅行は1つの場所を観るために兎に角歩くということです。1つ1つの距離も離れていることもありますが、建物が大きくそして面積も広く、1つの場所を観るために1日かかるような場所もあると聞きます。ここでも中国の大きさを感じました。明孝陵は、赤や黄などを基調とした綺麗な陵でした。対して中山陵は青と白などを基調とし厳然な陵でした。

続いて、武漢を訪れました。ここでは三国志で有名な赤壁を観たくて訪れました。赤壁へは少し距離があり武漢から時間がかかりました。赤壁の戦いについては諸説あるようですが、昔ここで戦いがあったのかと思いを馳せてみたいと訪ねました。正式には「三国志赤壁古戦場」と言うそうで、主に赤文字で書かれた赤壁があるほか、三国志の解説がありました。諸葛亮孔明の偉大さを感じる場所でした。中国では関羽と公孔明の人気がとても高く関羽は神として祀られているほどです。赤壁を訪れ中国の歴史に触れられた気がしました。他に武漢では黄鶴楼、そして湖北博物館を訪れました。黄鶴楼は日本でも観られる五重塔などによく似ており、やはり日本の文化に中国は大きく影響を与えているのだなと改めて感じました。湖北博物館では有名な4つの宝が観覧できるように行きました。童心というものはなかなか忘れられないようで、剣などの展示物には少し心躍るのを感じました。中国での博物館はほとんどが無料で観覧でき、観覧者にとってはとてもうれしいものとなっています。



『明孝陵』



『中山陵』



『赤壁』

中国語の能力は日に日に増しているのではないかと感じられることもあり、私自身は充実した時間を過ごしていると思います。時間が限られているので身に入るものも限られてきます。しかしながら、できる限り色々なこと、言語以外のことにも挑戦したいと思っています。

浙江省友好交流員

加治屋 樹